

女性脊髄障害者の健康相談を開始して

病院看護 道木恭子、横田美恵子、山中京子、斉藤文子、多田由美子
宮坂良子、古田佳奈代、酒井陽子、西川民子、田村玉美

【はじめに】

女性脊髄障害者との関わりから、女性たちは受傷後の結婚、出産、性行為などに関する問題や不安を抱えていることを実感してきた。2005年に実施した「性に関する健康問題の実態調査」からは、月経、更年期、婦人科疾患についても問題を抱えていること、相談する場所がないことなどが明らかとなった。性に関する問題は、単に泌尿生殖器系の問題には留まらないことから、障害を理解した専門家による正しい情報提供と、必要な受診科へのアプローチ、そしてカウンセリングが必要である。この実践への取り組みとして2008年に「健康相談窓口」を開設した。今回は、その現状と問題点とについて報告する。

【相談窓口の現状】

1. 相談者の概況

2008年2月～2009年7月までの相談者の合計は18名で、年齢は20歳代が6名、30歳代が10名、40歳代が2名だった。障害名は脊髄障害14名、脳血管疾患2名、その他2名で、地域別では東京11名、埼玉4名、静岡1名、群馬1名、愛知1名だった。来院状況は、本人のみが10名、夫との来院は4名、夫および親の来院は4名だった。

2. 来院までの経緯

インターネットで、「脊髄損傷」「出産」のキーワードで当院を検索した人が8名、当院の患者8名、他院からの紹介2名だった。

3. 相談内容

妊娠・出産12名、不妊相談4名、月経・更年期4名、性行為3名、婦人科疾患3名だった。

【問題点】

夫が脊髄損傷というケースの挙児については男性不妊への対応が必要であるが、当院の泌尿器科では性機能障害に対応していない。また、産婦人科も月に一度の診療のため、早急な対応が困難な場合がある。遠方の相談者への対応も検討する必要がある。

【まとめ】

女性障害者の性に関する問題に対しては、障害と性に関する専門的な知識を持つ看護師が、時間をかけて対応することが必要である。全国的にみても障害者の性を含む問題に対応している病院施設はないことから、当院の相談窓口は継続する必要性が高い。実際に開設以来、遠方からの相談者もあり、自分が妊娠可能な身体であることを知らなかった女性が妊娠・出産し5名のベビーが誕生している。今後は、脳血管障害など他の障害についても知識を深め、広く障害者の健康相談として対応できるようにして、需要が増えるようにしたい。